

## 4校を総合した結果分析と今後の取り組みについて

西連携型小中一貫校

### 1 コミュニティ・スクールの推進を基盤とした小中一貫教育の充実

4校が目指す子ども像「未来を切り拓く力をもった子どもの育成」の実現に向け、地域・保護者・学校の協働により、コミュニティ・スクールの推進を基盤とした小中一貫教育の充実に取り組んできました。各校の取組については、学校通信やホームページをはじめ、地域の回覧板等で発信しました。

今年度は、感染症や熱中症等の健康リスク、コロナ後の生活環境の変化などがありますが、各校の教育活動は安定的に実施できたのではないかと思います。課題としては「地域行事への参加」が、地域行事が減少している中、減少傾向も見られますが、**保護者が80%、児童生徒が70%**と、昨年並となっております。

令和7年度も、子どもが地域で活躍できるように、地域・保護者の皆様、地域づくりセンターとの連絡・協働をさらに推進していきます。



### 2 自ら学び自ら考える子の育成

藤岡教育の「授業の始めにめあてが示され、最後にまとめやふりかえりがある」ことや、「すべての授業でタブレットPCが活用されるようになった」ことで、子どもたちの自律的な学びを支え、より充実した学びができるようになりました。反面、「自分の意見や考えを積極的に発表すること」**(72%)**、「進んで読書をする」こと**(児童70%)**については、昨年同じ傾向が見られました。また、「家読」に関して、**保護者は63%であり**、子どもたちが読書をする環境を地域、学校、家庭が連携して取り組まなければならない課題となっています。

令和7年度は、児童生徒の自己肯定感を高め、互いを認め合える良好な関係を築きながら、「表現する力」を育み、安心して発言できる環境づくりに努めていきます。また、本好きの児童生徒が増えるよう、「朝読書」や「巡回文庫」を継続するとともに、「家読の日（毎月第4土曜日）」をはじめ、家庭と連携して、読書する空間作り、時間作りを推進していきます。

### 3 心豊かで思いやりのある子の育成

「いじめのない学校づくり」への取組について、**保護者80%、生徒児童88%**となっており、多くの方にその取組が伝えられているのではないかと思います。いじめ問題対策に一定の評価を得ているものの、一人一人を大切に、いじめゼロを目指すためには、今後も、丁寧な指導・支援が必要であると考えます。また、学校では、児童生徒が互いに思いやり、優しい気持ちをもって接することができている場面をたくさん見かけますが、「友だちのよいところを紹介し合うなどの活動をしている」が**63%と低く**、活動が十分に定着していないことが引き続きの課題となっています。

令和7年度も、今年度と同様に児童会・生徒会活動、委員会活動、学級活動などにおいて、「仲間を大切にする」「友だちを思いやる」ことに気づけるような活動を取り入れていきます。年2回の人権集中学習と「西中サミット」、「いじめ問題解決に向けた子ども会議」をつながりのあるものにするすることで、児童生徒主体のいじめ対策を進めていきます。



### 4 健康でたくましい子の育成

「スマホやインターネットの安全な使い方や危険性、ルールづくり」が保護者評価では79%、児童生徒評価では89%と、SNSとの付き合い方への意識が高くなっており、各家庭でも良く話をいただいているかと思います。そのに伴い、「ゲームやオンラインゲームなどをする人は、家の人と遊ぶ場所や時間などを決めて遊んでいますか」については**児童生徒81%**となっており、今後も、家庭と連携を図りながら、取り組んでいきたいと課題であると考えます。

令和7年度は、ゲームやスマホのルールを決めて終わりではなく、決めたルールをしっかりと守れるよう、家庭と相談しながら取り組んでいきます。併せて、日常生活の中で、交通ルールや交通マナーを守れるよう、家庭及び登下校の見守りボランティアと連携し注意喚起を促していきます。